

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 2月 日

事業所名

風の子びれっじ空Kuu

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		スペース分け等構造化を進めている	個別スペース以外にクールダウンスペースをつくっていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切に配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差はない高さのある水道等適宜使用している。	入口手前に少し段差があり、メンバーさんに応じて簡易スロープ等検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		1週間毎に振り返り、社内全体で共有している。	共通認識で、より効果的にサイクルを回していけるよう、PDCAについての研修を行い、流れを再度見直ししていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表とは別に、活動アンケートも定期的に行っている。	アンケートで頂いたご意見に対する返答に対して、変更した部分についておたより等で周知していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		昨年よりHPブログにて公開している。	ブログでの公開では、後から確認しづらいこともありHP別ページに公開して見て頂きやすいようにしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		客観的に評価をして頂けるよう検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		3ヶ月に1回社内研修動画研修・階層別研修社外研修にも参加。	ペアレント・トレーニング等研修にも参加していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご家族・学校・実習先と連携。スモールステップで計画を作成している。	アセスメント適宜更新しているが、1年に1回は必ず再確認・更新を行っていく。より具体的な計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		社内で標準化したアセスメントツールを使用している。	必要項目を見直し、改善していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフの得意を活かしつつも、チーム全体で共有して実施。	プログラムについて、ねらいや評価基準などについて、シートにまとめて共有することでよりチーム全体で共有、取り組みやすい環境をつくっていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動の選択制も導入。	様々な活動、選択肢ができるよう新しいプログラムを立案していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		課題を設定し、共有シートに記入。個別ファイルで管理している。	課題の見直し・補充、チェック方法や実施方法についてスタッフ間で統一できているか確認していく。定期的な再評価で適切な課題を設定していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別の課題や作業、集団のコミュニケーション等組み合わせで作成している。	よりメンバーさんの強みを伸ばしていけるよう計画の作成を行っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		共有タイムを設定して個別療育、活動内容について打合せをしている。	個別に配慮が必要な部分を抜けなく共有できるようシートを作成して打合せを行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	打合せ・連絡ノートで共有している。	打合せを行っているが、送迎等で翌日以降の話し合いになることもあるが、時間を設定して当日実施する。それ以外に連絡ノートで共有を進めていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		集団活動・個別療育について記録している。	時間や回数、表情や細かい様子をより具体的に記録して、正確な検証・改善につなげていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを実施、継続の項目も目標や支援内容の見直しを行う。	振り返りの際の記録・チェック表などツールをより正確に評価できるものに改善していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動・イベント・個別療育で実施している。	より様々な活動・選択機会をつくっていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	他スタッフの意見も共有して参加している。	担当者会議で共有する内容について、漏れがないよう、引き継ぎシートを使用していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校・事業所での様子を共有している。見学会や体験会にも参加して情報共有を行っている。	送迎時以外でも細かく連携進めていけるよう電話での連絡や、引き継ぎ内容をまとめたものをお渡しできるようにしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			対象の方がいないが、必要あれば体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	来年度のご利用の方より児童発達支援事業所との連携を進めている。	より詳細に連携進めることができるよう、引き継ぎのフォーマットを使用して連携を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	担当者会議の際、事業所での様子を提供している。	より詳細に連携進めることができるよう、引き継ぎのフォーマットを使用して連携を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	研修に参加している。	今後、助言を頂けるよう連携を深めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	地域交流イベントを実施している。地域で行われるイベントに参加している。	事業所でのイベントは参加者が少なく、積極的に地域イベントに参加、様々な団体の方と交流する機会をつくっていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	療育支援事業所が集まる研修会に参加している。	今後も、療育支援事業所とのネットワークを広げ、事例検討やイベント等で地域で協力して支援力を高めていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時やお電話等で共有している。	じっくりとお話できる面談の機会を増やしていく。調整を早め、来て頂きやすいようにしていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	茶話会で学年の違う保護者様からお話し頂いたり、社内の研修等に参加して頂いている。	ペアレント・トレーニングについて研修に参加し、保護者様支援を進めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	変更時の書類、おたよりでお伝えしている。	より分かりやすくまとめたものを配布、HP等の掲載を進めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時やお電話等で共有している。	じっくりとお話できる面談の機会を増やしていく。モニタリング等必要時は1ヶ月前に調整を進めていく。
	32	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	茶話会を開催して、活動や個別療育について話し、保護者様の情報共有の場になっている。	不定期に取り組んでおり、定期的に実施、また参加して頂きやすいような内容・日程の調整を行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情担当責任者が対応、社内での共有迅速に対応、保護者様に報告をしている。	苦情対応について、定期的に見直し改善を行っていく。ご意見を頂きやすいような環境をつくっていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	3ヶ月に1回社内おたより、事業所おたよりを発行している。	HPブログも更新頻度を増やし、情報発信を進めていく。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報の管理、情報発信の際の画像許可等行っている。	取り扱い注意点に関して、定期的に見直し改善を進めていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	コミュニケーション方法確認、ツールを使用している。	実際にツールが本人に合っているものか適宜確認を進めていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域交流イベントを実施している。	参加人数が少なく、地域に出て知っていただく、交流する機会を増やしていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成して配布している。変更時書類を配布。 防犯について、周知できていない部分もありマニュアルの見直し、周知を進めていく。定期的全マニュアルの見直し機会をつくっていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回避難訓練を実施している。できる限り避難所まで徒歩訓練を行っている。 様々なシュミレーションも仮定して実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内・動画研修、社外研修にも参加している。 不適切な支援、本人主体の支援について話し合う機会を定期的につくっていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			社内で、「身体拘束は行わない」としている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			対象の方がいないが、必要あれば体制を整えていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書の作成、記入共有している。 より細かい内容でも記入・共有するようにして事前に事故を防ぐことができるよう体制を整えていく。